
令和6年度第3回飯塚市子ども・子育て会議議事要旨

令和6年度第3回飯塚市子ども・子育て会議(令和6年11月27日開催)での議事に関する質疑及び検討結果は、以下のとおり。

(1) 次期こども計画素案について

委員 待機児童の件について、確保されている定員数と需要を比較すると待機児童数が0となっているが、希望する保育園・幼稚園に入れなかったために入園を見送っている方も実際にいると考えられる。そのような状況について、何らかの把握をしているか。

事務局 第一希望の保育園に入れなかったために入園を見送る、いわゆる未利用児童や隠れ待機児童についての人数の具体的な把握はできていない状況である。
待機児童問題は令和以降重要な課題で、専門の部署も設置されたが、市の方針としては、保育ニーズに対する定員の確保を基本としつつ、第一希望の園に入れなかった場合は第二・第三希望の園を紹介することで、待機児童を出さない取り組みを進めてきた。
一部の保育園・幼稚園の認定こども園化を推進しており、従来3歳以上のみを受け入れていた幼稚園が、認定こども園に移行することで0歳児からの受け入れが可能となる体制の整備を進めている。0歳児から3歳未満児の保育定員の確保については、保育協会や幼稚園連盟等の関係団体と対話を重ねながら取り組みを進めているところである。

委員 第一希望の園に入園できないケースについて、現在、入園希望は第四希望まで記入可能であると思うが、第四希望までのすべての園に入園できなかったケースの有無について伺いたい。また、第四希望まで記入後、市役所から希望外の園を紹介されたが、当該園が自宅や職場から遠距離であり、送迎が困難なために入園を見送らざるを得なかったケースの有無について確認したい。

事務局 入園申し込みは第四希望まで記入可能だが、これらの園への入園は義務ではなく、距離的な理由等により入園を見送るケースも存在する。この場合、児童は未利用児童として位置付けられる。
待機児童対策として、第四希望までの園に入園できない場合、保育担当部署では保護者の希望に沿うよう保育所と連携を取りながら空き状況を確認し、新たな園を提案している。ただし、これはあくまでも保護者の同意を得た上での利用となる。第四希望以外の園の斡旋は実施されているが、担当部署が別であることから具体的な件数等の把握はできていない。

近年、各園は体力作り、英語教育、少人数制などの特色を打ち出しており、保護者の中には第一希望や第二希望しか希望しない例も多い。特定の地区の人気園に地区外から入園希望があった場合など、現実的なマッチングが難しいケースもあるが、これらは待機児童としてはカウントされない。

これまで福岡県では、希望する園に入園できない未利用児童も待機児童としてカウントしていたが、全国的な考え方の変更により、現在は未利用児童として区分する方式に変更されている。未利用児童の具体的な人数については、現時点では把握できていない状況である。

委員 10ページの令和11年における0歳から4歳の人口推計について、男性が2,223人、女性が1,766人となっており、通常は出生時の男女比率で男児がやや多い傾向にあるものの、その差が通常の比率を大きく超えているように思われる。その根拠や特別な要因の有無について確認したい。また、こども計画は出生前からの支援が考慮されていることから、この男女比の差異に医学的または重要な要因があれば、それをふまえた計画策定の必要性についても検討したい。

事務局 コーホート法という統計学的手法を用いた人口推計において、増減率に特異点が存在すると、その影響が推計値に反映される性質があり、女性人口の増減率が大きく変動した5年間の平均値を使用した可能性がある。

このため、実際の出生数から見た場合、この男女差は現実的とは考えにくく、医療現場の実感とは異なる結果となっているが、あくまでも統計的手法に基づく数値として捉えている状況である。

委員 66ページの若者との対話という部分で、こどもたちは往々にして「正解」を求められていると感じ、本音を言いづらい傾向がある。どのような環境や進行方法で率直な意見交換を実現しているのか、会議の具体的な実施状況について確認したい。

事務局 飯塚市では、飯塚青年会議所との連携協定に基づき、市内の小・中・高校において、まちづくりに関する対話を行っている。総合的な学習の時間等を活用し、青年会議所の若手経営者が参加して班別での対話を行い、その内容をボードにまとめて発表するワークショップ形式で実施している。

県主催の嘉飯桂の未来塾では、嘉麻市・飯塚市・桂川町の中学生を一般公募し、地域の識者による講話を通じて地域について学び、班ごとに今後のまちづくりについての提案を模造紙にまとめ発表している。これらの様子は次期計画の資料編に掲載し、こどもたちの意見として掲載する予定である。

また、その中でみられた意見は、各部局の政策立案に活用していく方針である。

こどもたちからの意見聴取については、本会議のような公式の場に直接招いて発言を求めることは難しい。現実的な方法として、こどもたちの活動の場に出向いてワークショップ形式で自由に意見を述べてもらい、それを大人が汲み取って計画に反映させる仕組みを採用している。この取り組みをもとに、今後の計画策定や進捗管理にも活用していきたいと考えている。

委員 令和6年度の取り組みはすでに終了したのか。

事務局 令和6年度の取り組みについては、桂川町の内容が追加されることで嘉飯圏域全体の内容が完成する。飯塚青年会議所との連携協定による取り組みは一旦終了とし、その全体を報告書としてまとめる予定である。
定住自立圏の中心市である飯塚市が、これらの意見を取りまとめ、桂川町と連携しながら、各自治体の計画への反映を図っていく方針である。

委員 こどもたちから出された意見について、例えば「複合施設を作ってほしい」という要望についてどのような施設を想像して発言したのか、「西鉄バスの本数を増やしてほしい」という意見についても、既存路線の増便なのか新規路線の開設なのかなど、具体的なニーズを把握する必要がある。

また、こどもたちから意見をもらった後、大人だけで計画を進めた場合、こどもたちが本来望んでいた施設や事業とは異なるものになる可能性がある。そのため、計画の途中段階においてもこどもたちと共に検討を進めていく仕組みの有無について確認したい。

事務局 こども大綱に基づき、こどもたちからの意見については必ずフィードバックを行う必要がある。そのため、大人側が意見を解釈・検討した内容についてこどもたちに確認し、解釈が異なる場合は見直しを行うなど、政策決定までの過程において丁寧な意見交換を実施する方針である。

委員 知人が小児がんでお子さんを亡くされた際、その方は精神的にも肉体的にも疲弊し、長期の付き添い入院で自身の時間も持てない状況だった。さらに、その経験を共有できる場所もなく、一人で対応せざるを得なかったとのことである。このような長期入院の子どもを持つ保護者に対して、現在、行政の支援システムがあるのか確認したい。

事務局 長期入院のこどもと家族への支援について、宿泊施設の整備は、飯塚市では現状できていない状況である。今後は民間団体との連携も視野に入れて取り組みを検討したいが、現時点では十分な支援体制が整っていない状況である。

委員 こどもとの対話については、単に意見を聞くだけでなく、こどもたちが「なぜそれが
必要なのか」「何のために必要なのか」といった議論ができる場になるといいと
感じている。現状は要望を聞き取っているような印象があるので、こどもたち同士
が意見を交わせる、より有意義な場になっていけばと思う。

また、発達支援に関する補助金について、今年度から交付が始まったとのことだ
が、実際に保育所・保育園での評価や現場の意見を伺いたい。

委員 現場としては、飯塚市からこのような補助金をつけていただき、とても助かってい
る。これまでは気になるお子さんへの支援には保護者の承諾が必要で、保護者が
「まだ早い」と感じる場合は、早い段階での個別支援が難しかった。

ただ、さらに補助金を増やしていただけると、小学校入学前の段階でより手厚い支
援ができると考えている。特に常時付き添いが必要なお子さんや飛び出しがあるお
子さんなどもいるため、一人一人に応じた質の高い保育を行うためには、人員確保
が必要な状況である。そういう意味で、この制度をさらに充実させていただけると
ありがたい。

事務局 支援が必要なお子さんへの対応について補足させていただきますと、保育士
の加配だけでなく、どのように対応すればよいかというスキルの問題もある
ため、専門の療育の先生に各園を訪問していただいて指導をお願いしてい
る。公立園でも定員まで受け入れられない園もある状況だ。

市の財政は厳しいが、引き続き現場の意見をいただきながら支援を続けてい
きたいと考えている。

会長 今の件に関して、支援の関係で保護者の方から相談を受けることがあり、最近
は保育園や幼稚園で加配があることで、しっかりと保護者と向き合って対応してく
れているようだ。私も保護者には、保育園の先生と相談しながら早くからこどもに合
った教育をすることが大切だと伝えている。このような加配があれば、支援が必要
なこどもたちも安心して通園できるのではないかと考えている。

（２）その他

次回：2月上旬から中旬の開催